

令和4年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

留学生に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	一般財団法人 日本語教育振興協会
事業名	初任者(留学生)のための研修プログラム普及事業
研修実施地域	全国
事業実施期間	令和4年4月～令和5年3月
研修受講者数	初任者研修58名／育成10名

研修報告の構成

1. 研修実施機関概要
2. 事業概要（目的・実施体制）
3. 研修の目的・ねらい
 - 3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
 - 3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）
 - 3.3. 研修体制
 - 3.4. 募集・選考・受講者・修了者の情報
 - 3.5. 研修の様子
 - 3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等）
 - 3.7. 評価
4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法、検証結果）
5. 成果と課題・日本語教育人材の不足に対する効果

Ⅰ. 研修実施機関概要

研修実施機関名： 一般財団法人 日本語教育振興協会

1989年創立

【設置目的】

- ・我が国における日本語教育機関の質的向上を図るため、必要な事業を実施し、もって主として外国人に対する日本語教育を振興し、国際間の相互理解の促進に寄与することを目的としています。



【主な事業】

- ・日本語教育機関の水準向上のための取組
- ・日本語教育機関及び日本語教育に関する情報提供
- ・日本語教育機関の支援事業 等

【組織】

- ・理事長 佐藤次郎 — 専務理事 — 事務局 —

事業部
評価部

- ・URL <https://www.nisshinkyo.org/>

2. 事業概要（目的・実施体制）

【初任者】研修の目的

1. 21世紀型日本語教師としてのレベルアップ
2. オンライン授業、ハイブリッド授業ができる日本語教師



日振協
日本語教師
初任者研修

日振協・初任者研修2022のカリキュラム概要 ＜研修のテーマ＞



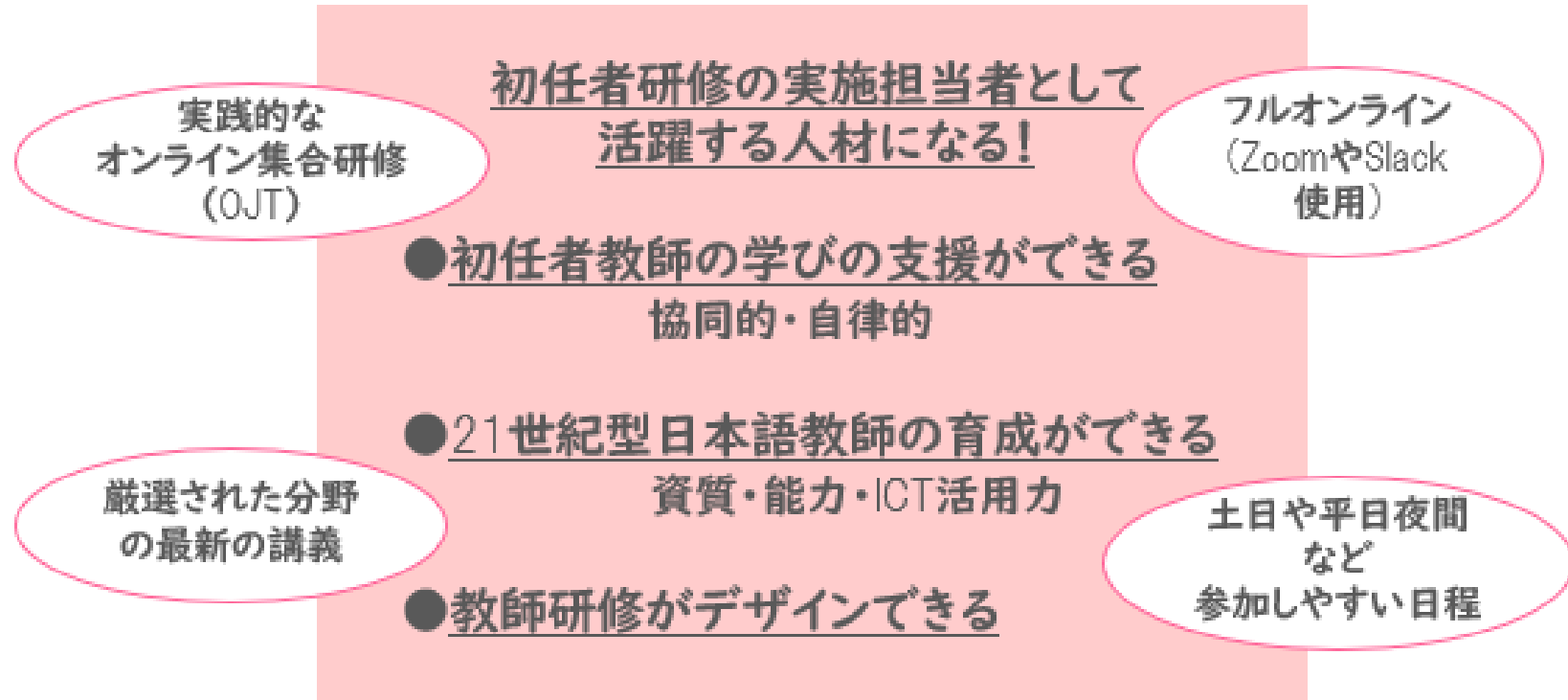
Development

- 21世紀型日本語教師としてのレベルアップ
- オンライン授業、ハイブリッド授業ができる日本語教師

2. 事業概要（目的・実施体制）

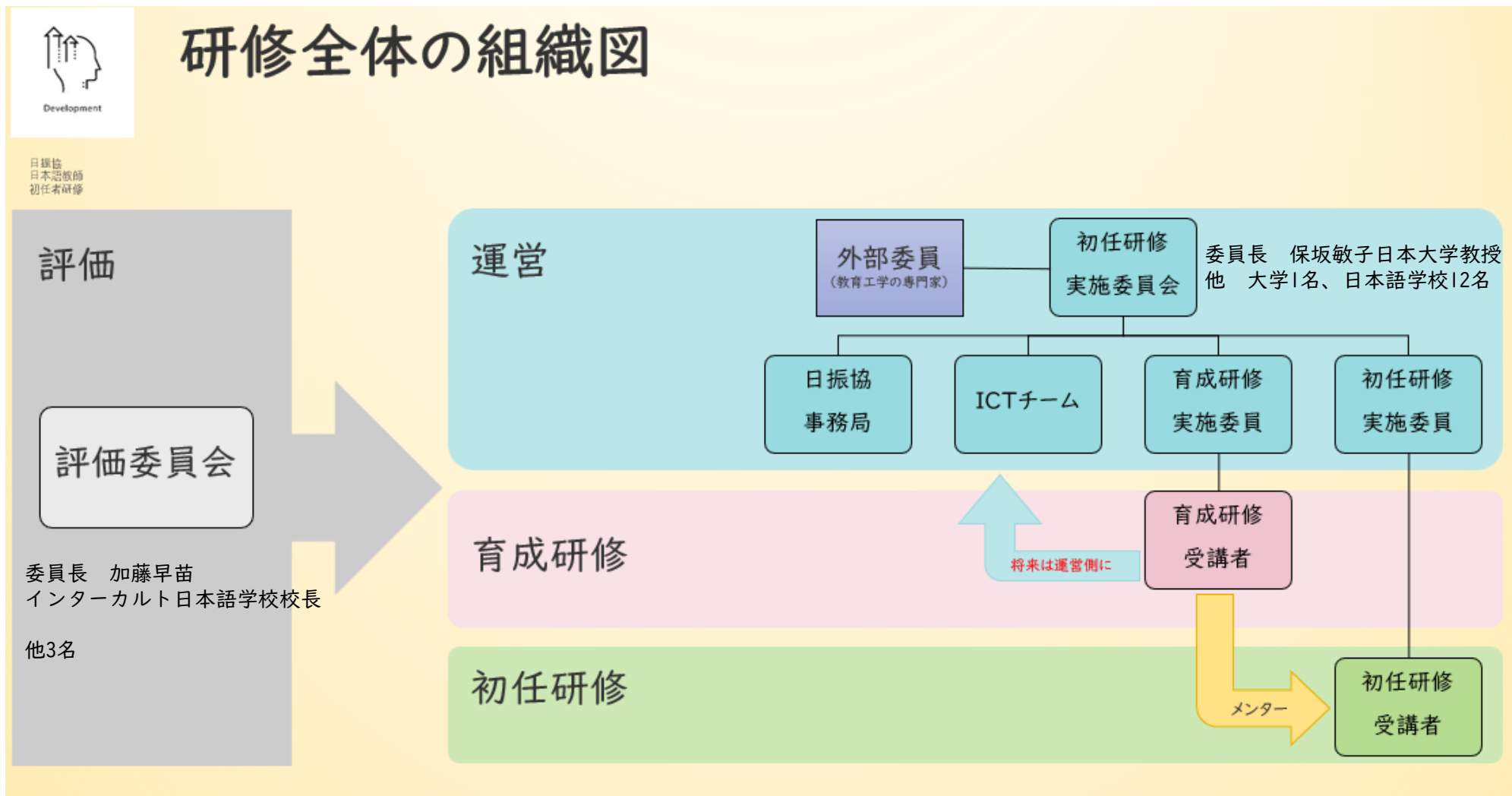
【育成】研修の目的

1. オンライン教育の推進を担える後継者を育成する
2. **初任者研修**講師としての資質・能力を育成する



2. 事業概要（目的・実施体制）

実施体制



3. 研修の目的・ねらい・特徴

「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」に示された「日本語教師【初任】（留学生）研修における教育内容」を軸に「実践的能力」として次の3つの資質・能力の養成に裨益することを目的としている。

- ①自律的・持続的な成長力（自律性、持続性、教師オートノミー、経験学習）
- ②対話力（教師間協働、学習者への対応、問題解決力、対人スキル）
- ③専門性（専門的知識、実践力、実践の帰納的・演繹的な分析力）

特徴は「オンライン映像講義」と「オンライン集合研修」と「オンライン自己研修（自律的学習）」の三位一体の編成により、日々業務に追われている受講生も、オンライン集合研修以外は、空いている時間を利用して研修に取り組める仕組みとなっている。この3種類の研修を体験することにより参加者のデジタルリテラシーの向上を狙っている。

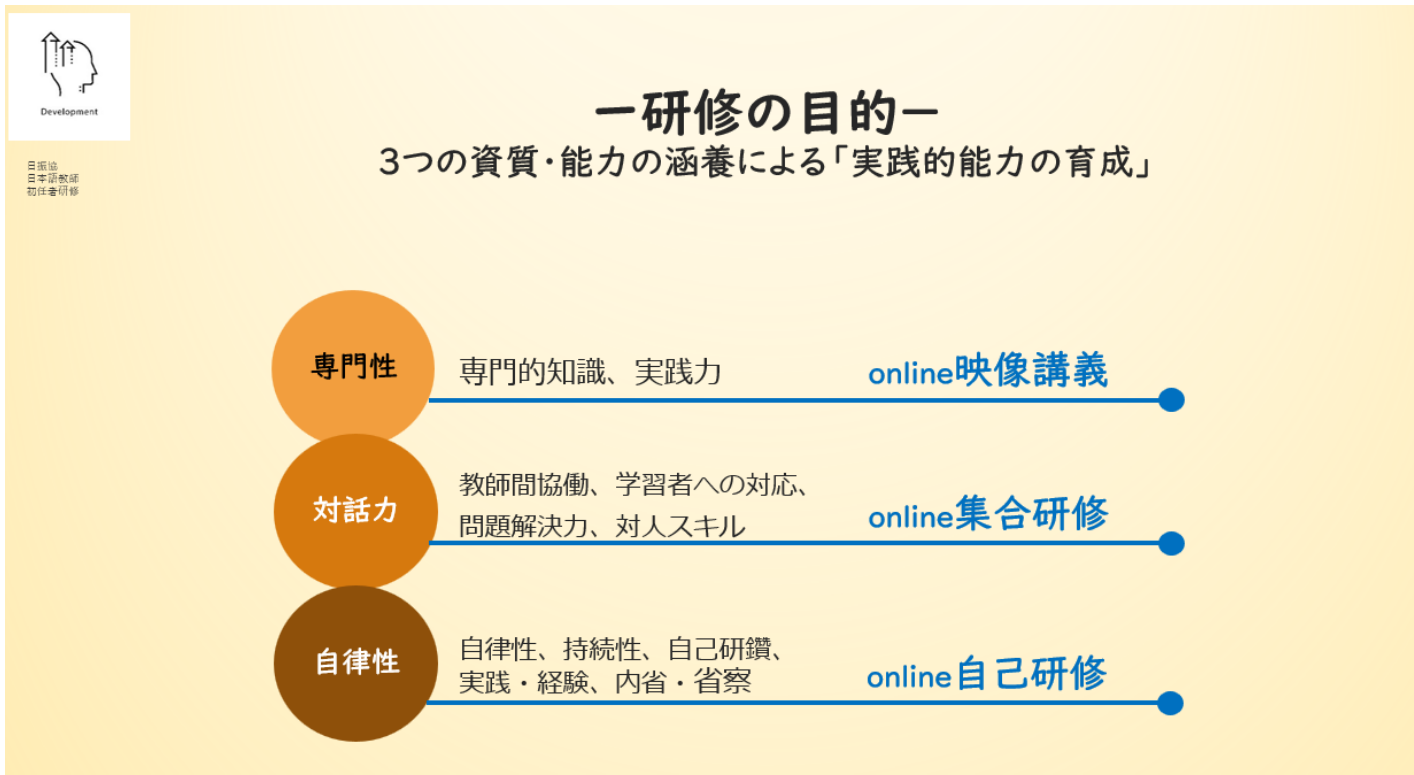
オンライン映像講義は全国の受講生の参加を可能にするだけでなく、各地で研修を展開する際の実施側の負担を軽くするねらいもある。オンライン集合研修により、ブロックという境界を越えた研修が可能になる。また、レポートの相互評価や自己研修などは、教師の自律的・持続的な成長力を高めるとともに、持続可能な研修システムとして機能し続けるのに寄与している。

本事業のもう一つの柱である「育成研修」は、インセンティブとして研修デザインなどの著名講師による専門知識の講義を行う他、OJT研修運営をサポートする役割を課し、講師としての資質・能力を育成するものとしている。

3.1. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係

本研修は、下記の図のように「専門性」「対話力」「自律性」の三位一体のプログラムにより、総合的に「実践的能力の育成」を目指したものとなっている。

その内容は平成31年度報告に準拠しており、知識・技能・態度で求められる資質・能力の向上に裨益するものである。



3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

（Ⅰ）映像講義（初任者）

視聴とクイズ回答

	方法	●必須 ▲任意	授業項目	サブタイトル	時間	担当講師
1	オンライン	●	日本語教育・日本語教育機関の変遷	言語教育界のパラダイム・シフトをめぐって	0:45	西原鈴子
2	オンライン	▲	日本の留学生政策と現状	留学生政策と日本語教育の位置付け、留学生の現状	0:37	佐藤由利子
3	オンライン	●	日本語教育機関の歴史と現状	日本語教育機関の変遷と現状	1:03	佐藤次郎
	オンライン			日本の留学生受け入れ施策－留学生の入国と在留の手続	0:52	高山泰
4	オンライン	●	日本語留学生の背景	モチベーションと教育制度Ⅰ（学生の背景と授業、東ア	0:43	奥田純子 亀田美保 山本弘子
				モチベーションと教育制度Ⅱ（東南アジア、南アジア、	0:52	
5	オンライン	▲	日本語の試験	日本語のテストの目的	0:32	伊東祐郎
				テストの役割と機能	0:54	
6	オンライン	▲	進路選択関連情報	キャリア教育とは	0:47	工藤尚美
				留学生への進路支援	0:46	
7	オンライン	●	留学生の異文化受容・適応とその支援	留学生の葛藤、異文化受容・適応への理解	0:33	加賀美常美代
				留学生の予防的支援と危機介入	0:32	
8	オンライン	●	留学生のための教材・教具のリソース	教材・教具のリソースの種類と特徴	0:40	保坂敏子
				教材・教具としてのリソースの活用	0:45	
9	オンライン	●	著作権	著作権の内容	0:50	我妻潤子
				著作物の利用	0:55	
10	オンライン	▲	統計処理（テスト・評価・成績管理）	統計の基本	0:45	島田めぐみ
				テスト・評価・成績管理の統計処理	0:41	
11	オンライン	●	目的別指導法	担当レベルをよく知ろう	0:47	倉本文子
				授業に魅力を加えよう	0:53	
12	オンライン	●	話す・議論の指導法	初級から中級で養う「話す力」	0:39	柳田直美
				上級で養う「話す力」「議論する力」	0:43	
13	オンライン	●	作文・論文の指導法	論理的な文章作成のプランニング	0:47	高橋薫
				論理的な文章作成と推敲	0:46	
14	オンライン	●	教案作成	教案を書こう	0:54	倉本文子
15	オンライン	●	教材作成	学習者にあった教材を作る	0:45	藤本かおる
				授業にICTを取り入れてみよう	0:44	
				教材を評価し改良する	0:39	
16	オンライン	●	オンライン授業法	オンライン授業の基礎と注意点	0:40	藤本かおる
				オンライン授業の具体的なデザイン	0:59	
17	オンライン	●	評価法	学習者のパフォーマンスを評価する	0:42	高橋薫
				自分の授業を評価する	0:40	

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

（2）集合研修（初任者）

主な内容			講師
6月25日（土）	オリエンテーション①	研修概要説明、実施体制、スケジュール	保坂敏子委員長他
14:00～17:00	（オンライン）	【講演】日本語教育参照枠について	文化庁職員
		LMSの利用方法、オフィスアワー等の説明	ICTサポート
		委員、育成メンバー紹介、グループでの自己紹介	育成（メンター）
7月9日（土）	オリエンテーション②	【ICT講習】	ICTサポート
14:00～17:30	（オンライン）	zoom、gacco、slack等	
		【ティーチングポートフォリオ】	栗田佳代子
		TPチャート作成を通して目標を設定	（東京大学総合教育研究センター 副センター長）
9月10日（土）	ワークショップ①	「初任者教員に求められる資質能力」	保坂敏子委員長他
14:00～17:00	（オンライン）	H31研修の在り方についてを参照して現在の自分を自己評し、 自己成長のためのアクションプランを立てる	
11月12日（土）	ワークショップ②	「オンライン授業のデザイン」	保坂敏子委員長他
14:00～17:00	（オンライン）	反転授業、ARCSモデルについて確認し、Can-do設定をして 反転授業を取り入れた教案を作成する	

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

（3）自己研修（初任者）

主な内容		講師
12月1日（木）～ 映像講義 （オンライン）	演習（自己点検） ①教育実践についての内省（0:44） ②授業分析－前向きな振り返りのために－（0:49）	金田智子（学習院大学文学部教授）
12月5日（月）～ 自己点検実習	①自分の授業を録画、文字化する	－
12月25日（日）（職場、オンライン）	②分析の目的に合った手法を映像講義の分析観点から選ぶ ③選択した手法に沿って自分の授業を分析する ④分析結果をレポートにまとめる	
12月26日（月）～ 相互評価	他の受講者のレポートをループリックに従って採点	－
1月15日（日）（オンライン）		

3.2. 研修概要（実施スケジュール・教育内容・教育方法）

（Ⅰ）専門分野講義（育成）

方法	日程	科目	講師
オンライン	6月18日(土) 10:30～12:00	研修デザイン	鈴木克明(熊本大学教授システム学研究センター教授)
オンライン	6月18日(土) 13:00～14:30	オンライン授業のデザイン	藤本かおる(武蔵野大学准教授)
オンライン	7月 2日(土) 10:30～12:00	キャリア形成	松尾睦(北海道大学大学院経済学研究院教授)
オンライン	7月 2日(土) 13:00～14:30	著作権	我妻潤子(知財アナリスト、東京藝術大学非常勤講師)
オンライン	8月20日（土） 10:30～12:00	教師教育	佐藤学(東京大学名誉教授)
オンライン	8月20日（土） 13:00～14:30	言語学習アドバイジング	脇坂真彩子(九州大学留学生センター准教授)
オンライン	8月20日（土） 15:00～16:30	オンライン授業のデザインを支える理論	保坂敏子(日本大学大学院総合社会情報研究科教授)

3.3-①. 研修体制（研修全体）



Development

日振協
日本語教師
初任者研修

研修全体の組織図

評価

評価委員会

委員長 加藤早苗
インターカルト日本語学校校長
他3名

運営

外部委員
(教育工学の専門家)

初任研修
実施委員会

委員長 保坂敏子 日本大学教授
他 大学1名、日本語学校12名

日振協
事務局

ICTチーム

育成研修
実施委員

初任研修
実施委員

育成研修

育成研修
受講者

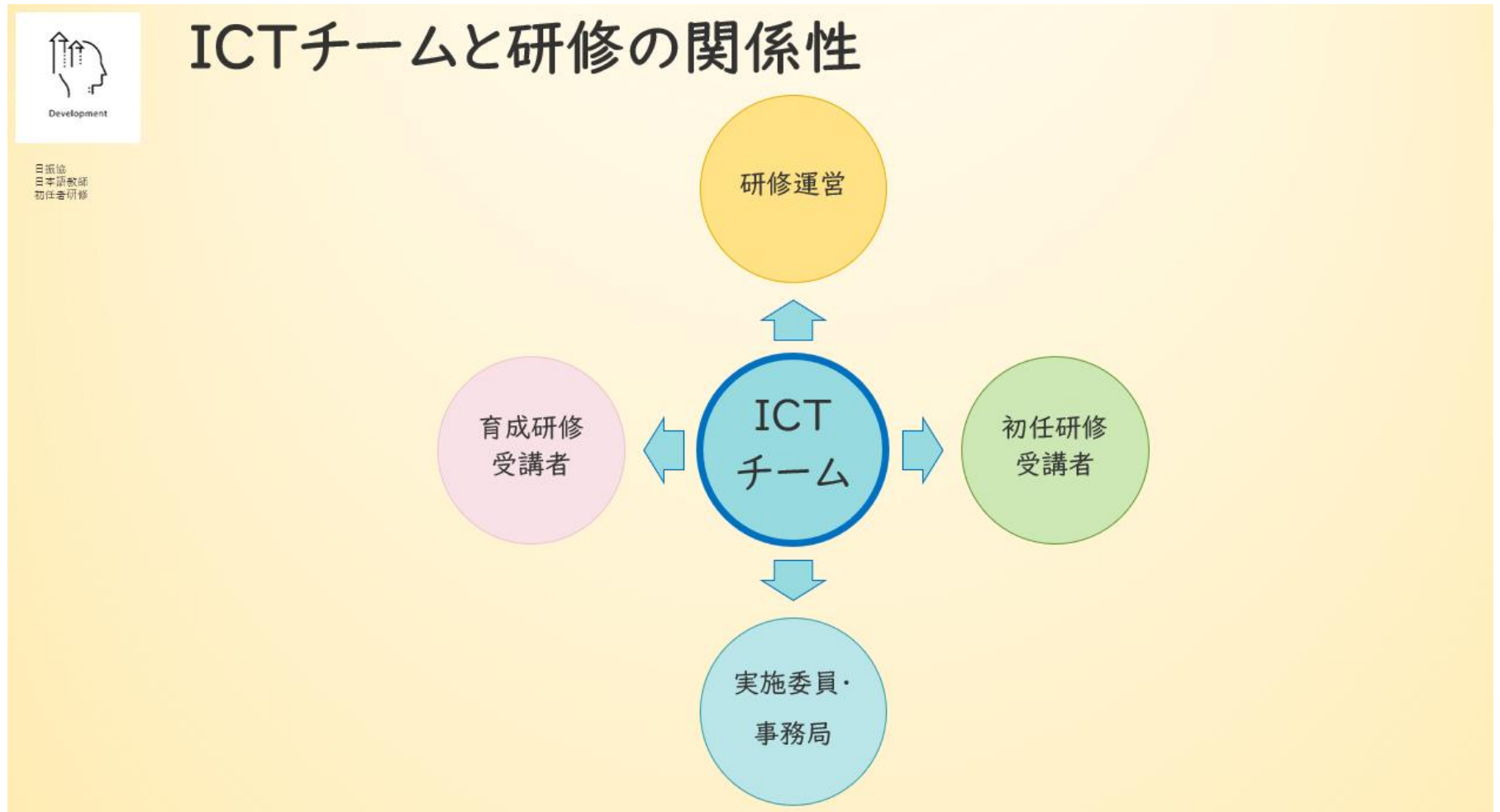
将来は運営側に

初任研修

メンター

初任研修
受講者

3.3-②.研修体制（ICTチームと研修の関係性）



3.3-③.研修体制（研修実施体制）

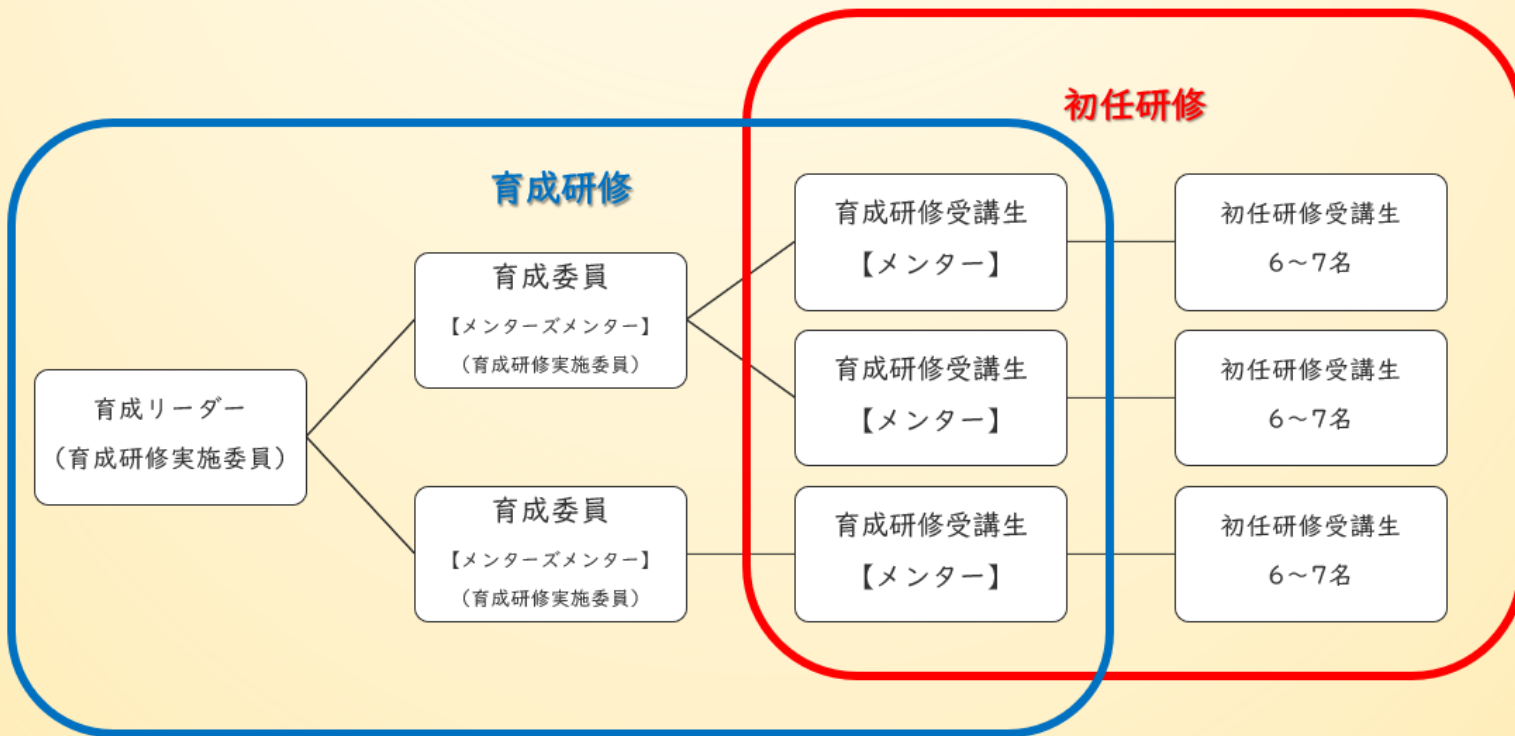


Development

日振協
日本国教師
初任者研修

研修実施体制

どちらの研修も、自律的に動くのはあくまで受講生です。



3.4.① 募集・選考・受講者・修了者の情報

＜募集期間＞

令和4年4月28日 ～ 令和4年5月27日

21世紀型日本語教師としてのレベルアップを

令和4年度
初任者研修

日振協
日本語教育成事業文化庁委託

Development

どの分野も第一人者がわかりやすく講義します

E-learningなので、好きな時間に繰り返し視聴できます

ポストコロナ時代に即役に立つICT活用授業が学べます

集合研修はビデオ会議システムでどこからでも参加可能

オフィスアワー設置で、ICTスキルも厚手くサポート

受講期間	2022年6月25日(土)～2023年1月15日(日)
申込締切	5月27日(金) (90単位履修)
対象・募集人数	告示校の日本語教師として採用されて原則3年以内の方 70名
受講料	10,000円 別途教材費が3,000円かかります(いずれも消費税込)

申込詳細 <https://www.nisshinkyo.or.jp> または右記QRコード
お問い合わせ nisshinkyo@gmail.com
一般財団法人日本語教育振興協会



研修カリキュラム

0-1 オンライン・オリエンテーション 6月25日(土) 14:00-17:00 0-2 オンライン・チームビルディング 7月9日(土) 14:00-17:30 講師:栗田代子(東京大学教授) <映像講義 知識編> 1 日本語教育・日本語教育機関の変遷 西原幹子(NPO日本語教育研究センター) (国際交流基金日本語国際センター所長) 2 日本の留学生政策と現状 佐藤由利子(東京工業大学環境・社会理工学大学院准教授) 3 日本語教育機関の歴史と現状 佐藤次郎(日本語教育振興協会理事) 高山泰(日本語教育振興協会理事) 4 日本語留学生の背景 黒田純子(リベラルカレッジ 学長) 黒田美穂(大阪YMCA日本語教育センター センター長) 山本弘子(カイ日本語スクール代表) 5 日本語の試験 伊東祐司(国際教養大学日本語教育実践領域代表、元東京外国語大学副学長) 6 進路選択関連情報 工藤尚典(秋田リソーシング取締役、資格執行役員) 7 留学生の異文化理解・適応と支援 加賀美孝孝(元白大学心理学部教授、元東京女子大学客員教授) 8 留学生のための教材・教員のリソース 保原敏子(日本大学大学院総合社会情報研究科教授) 9 著作権 佐藤美子(3rdアナリス、東京書籍大学非常勤講師) 10 統計処理(テスト・評価・成績管理) 島田めぐみ(日本大学大学院総合社会情報研究科教授)	<映像講義 演習編> 11-1 目的別指導法 倉本文子(カイ日本語スクール研修担当主任) 11-2 話す・読解の指導法 柳田直美(一般財団法人国際教育文化センター准教授) 11-3 作文・論文の指導法 高橋真(創価大学文学士課程教員准教授) 11-4 教養作成 倉本文子(カイ日本語スクール研修担当主任) 11-5 教材作成 藤本ひろみ(武蔵野大学グローバル学部准教授) 11-6 オンライン授業法 藤本ひろみ(武蔵野大学グローバル学部准教授) 11-7 評価法 高橋真(創価大学文学士課程教員准教授) <集合研修> 14:00-17:00 12-1 オンラインワークショップ 9月10日(土) 12-2 オンラインワークショップ 11月12日(土) <自己点検> 13 演習(自己点検) 金田智子(学院大学文学部教授) 14 演習(自己点検実習) ・経験の振り返りや議論を通じて内実力の強化 ・経験を通して学びの育成 ・授業設計・授業分析 など 15 演習(相互評価) ・互いのレポートを相互評価、LMS上にて共有
--	--

修了した先輩の喜びの声

日本語教育振興協会とは?

平成元年の設立以来、日本語教育振興協会は、日本語教育機関の質的向上を図るとともに、留学生在が安心して留学に専念できる環境づくりに取り組んでいます。

当協会は、日本語教育機関の質保証システムとして教育活動評価と第三者評価を実施しています。併せて、研修・セミナーや調査研究など必要な各種事業に取り組んでいます。日本語教育機関の水準向上のための研修・セミナーとしては、この初任者研修のほか、文化庁委託主任教員研修、日本語教育機関トップセミナー、日本語学教育研究大会、生活指導者研修、事務経理職員研修会等を開催しております。

一般財団法人日本語教育振興協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-14 / レ・フルーム4階 TEL:03-6380-6557
www.nisshinkyo.org/



＜募集媒体・方法＞

日振協ウェブサイト、会員校ML、関連学会、日振協研究大会参加者etc.
チラシ・研修案内を作成し、配布

3.4.② 募集・選考・受講者・修了者の情報

初任者研修

修了率 94.5%

【修了要件】

- 全ての講義を履修（全てオンライン）
（①映像講義、②集合研修、③自己研修）
- それぞれの課題を提出（あるいは実施）
- 各セクションで100点中70%（70点）
以上を取得すること

育成研修

修了率 100%

【修了要件】

- 専門分野オンライン講義（同期）を履修、
課題を提出
- 集合研修運営準備会議への参加と参加日誌の提出
- 集合研修への参加（OJT）、参加日誌提出とレポート採点
- 各セクションで100点中70%（70点）以上を取得すること

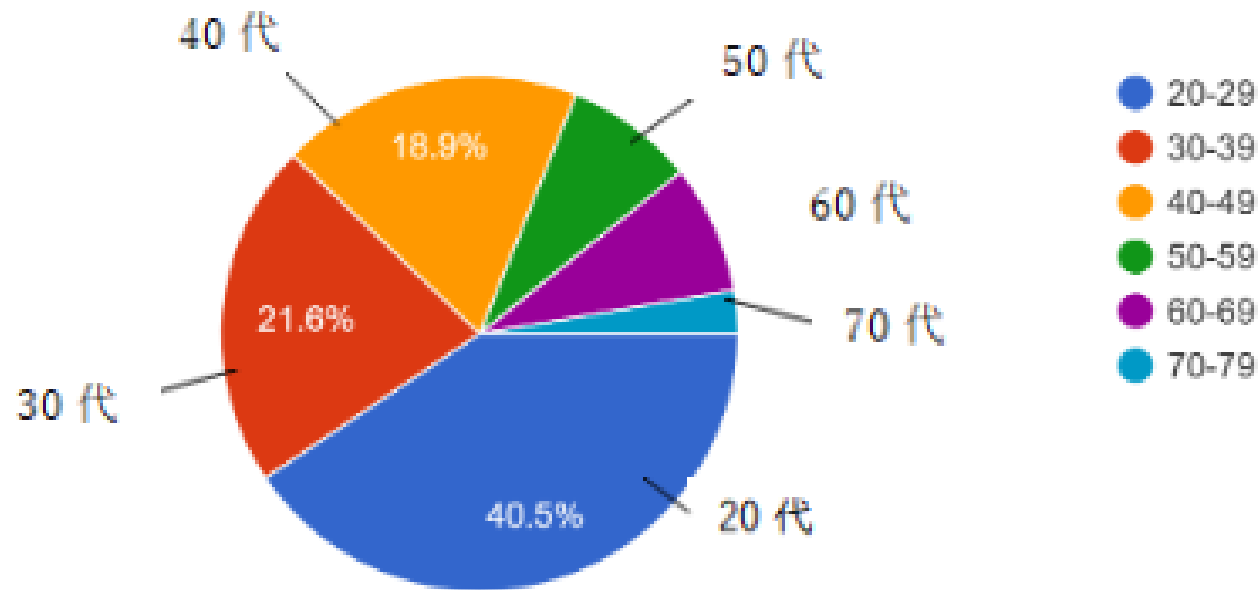
3.4.③ 募集・選考・受講者・修了者の情報

＼北から南まで／
全国の仲間と共に学べる！

地区	総数	勤務形態		経験年数（応募時点）			
		常勤	非常勤	1年未満	～2年	～3年	3年以上
北海道東北	3名	3名		1名	1名		1名
関東甲信越	26名	10名	16名	10名	5名	6名	5名
東海北陸	7名	3名	4名	1名	4名	2名	
近畿	7名	4名	3名	2名		3名	2名
中国四国	4名	4名		1名	2名	1名	
九州沖縄	11名	10名	1名	5名	3名	2名	1名
合計	58名	34名	24名	20名	15名	14名	9名
〔参考〕2021年度	76名	37名	39名	20名	28名	18名	10名

3.4. ④募集・選考・受講者・修了者の情報

＼人生のベテランから新人まで／
多様な考え方が吸収できる！



3.5. 研修の様子 (LMS)

※下記は「平成30年度文化庁日本語教育人材養成研修カリキュラム等開発事業」で作成した日振協オリジナル教材です。

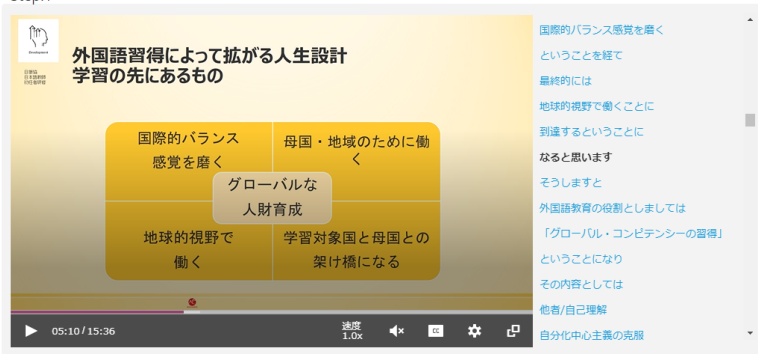
gacco映像教材(講義)

オンライン映像講義① (理論編)

1. 日本語教育の変遷

言語教育界のパラダイム・シフトをめぐって

Step.1



gacco映像教材(クイズ)

1. 日本語教育・日本語教育機関の変遷

言語教育界のパラダイム・シフトをめぐって

問題2 (0.0/1.3 点満点)

言語学習・教育のパラダイム・シフトが日本語教育界にもたらした最も大きな影響は何ですか。

- ☐ 海外から高度人材を受け入れること
- ☐ 情報科学の成果を教育に取り入れること
- ☐ 学習者の多様性と多様な学びに対応すること

提出 提出期限切れ 全2回の内0回 回答済み 解答を見る

gacco相互評価

全体フィードバック

分析手法の選択理由が、合理的だと感じた。
学習者の発話を増やすのは難しいことだが、問題の解かせ方から意識的に口頭練習を取り入れ、DQとRQのバランスを調整するなど効果的なアプローチが提示されていたと思う。

Referential Question
(指示質問: 質問者が答えを知らない質問)

Display Question
(提示質問: 既に答えが決まっている質問)

オリエンテーションI



- ・研修概要
- ・運営委員紹介
- ・ICT講座 (zoom,slack,gacco)
- ・協働グループ顔合わせ等

オリエンテーション2

[illegible]

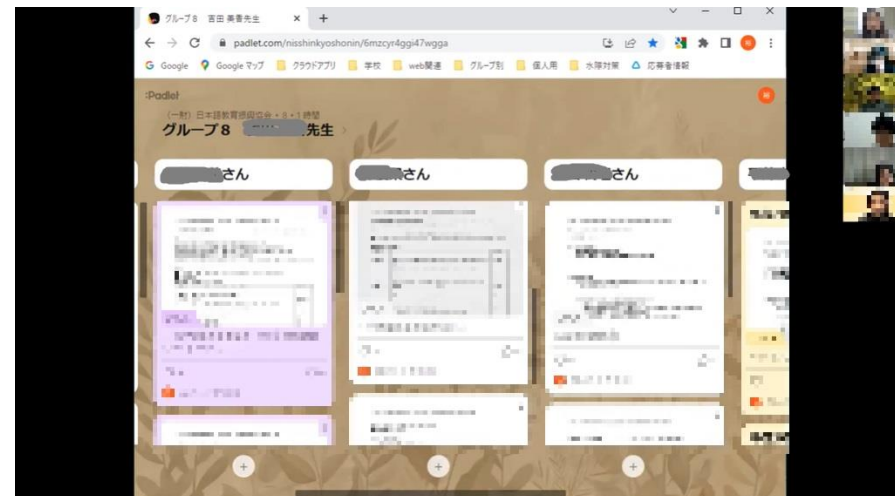
栗田佳代子先生（東京大学教授）による講義、
ティーチングポートフォリオチャート作成

3.5. 研修の様子

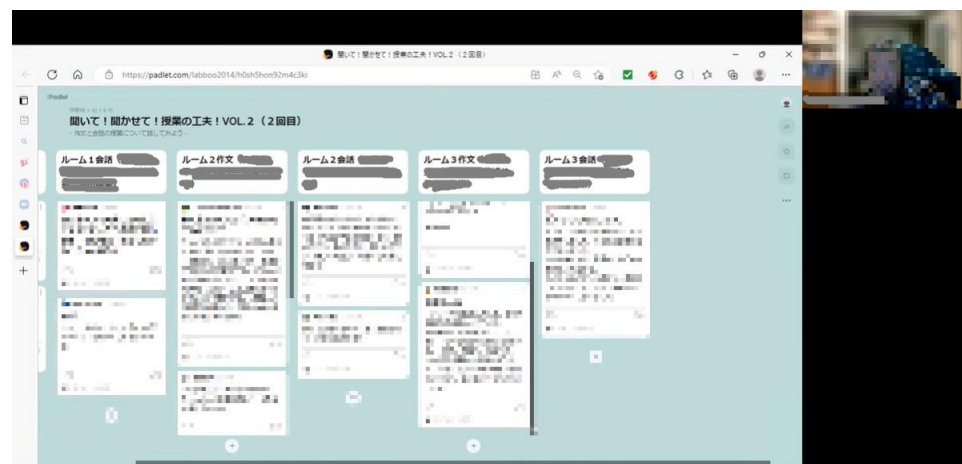
ワークショップ1



ワークショップ2



コミュニケーションイベント



3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等）

【研修フォロー】



オフィスアワー（週2～3回20:00-22:00）

- ・ ICTスキルの向上及びサポートを希望者に実施



LMSの管理、運営サポート

- ・ 技術サポートの専門家チームが管理し、対応

3.6. 受講者間のネットワーキングの工夫

【研修コミュニケーションツール】



受講者、委員、メンター、事務局の相互連絡

- ・運営と参加者で部屋を設定し、その中でトピック別にチャンネルを設定し、自由に質問や話ができるようにした
- ・DMで個別連絡にも活用



- ・有料化に伴い、Discordに移行

3.6. 研修前後のフォローアップ体制（学びを深めるサポート等）

コミュニケーションイベント①

ワークショップ①に先立ち
「文型導入、漢字」について
参加希望者で協働作業



コミュニケーションイベント②

ワークショップ②に先立ち
「ARCS、作文・会話授業」に
ついて参加希望者で協働作業



3.7. 評価（単位と修了認定）

【初任者】

研修形態	研修内容	評価点(満点)と単位					
		2022年度					
		単位			点		
オンライン映像講義	理論編	25	11		100	44	クイズ: 11コマ×4点
	実践編		14			56	クイズ: 14コマ×4点
オンライン集合研修	オリエンテーション①	35	3		100	5	参加
	オリエンテーション②		4			5	参加
	ワークショップ①		14	6		20	参加
				8		25	課題レポート800字以内 メンター評価
	ワークショップ②		14	6		20	参加
				8		25	教案作成
自己研修	自己点検事前講座 映像講義	30	10		100	20	クイズ: 2コマ×10点
	自己点検実習		10			40	課題レポート800字以内 提出点
	相互評価(レポート)		10			40	相互評価3人の中央値=得点 (評価するのは4人)
合計		90	90		300		

3.7. 評価（単位と修了認定）

【育成】

2022年研修内容		単位		履修状況確認	
オリエンテーション①		-			
オリエンテーション②		-			
専門分野講義	研修デザイン	28	4	出席及び課題提出	・重要だと思ったこと、 ・疑問に思ったこと、その他 各100～140文字程度で記入 講義後1週間以内 Google Forms
	オンライン授業デザイン		4	出席及び課題提出	
	キャリア形成		4	出席及び課題提出	
	著作権		4	出席及び課題提出	
	教師教育		4	出席及び課題提出	
	学習アドバイジング		4	出席及び課題提出	
	オンライン授業のデザインを支える理論		4	出席及び課題提出	
初任研修のオンライン集合研修運営準備会議		3	3	参加日誌	終了後1週間以内 Google Docs
初任者 集合研修	オリエンテーション①	9	3	参加日誌	終了後1週間以内 Google Docs
	オリエンテーション②			参加日誌	終了後1週間以内 Google Docs
	ワークショップ①		3	参加日誌・ レポート採点	参加日誌: 終了後1週間以内 Google Docs レポート採点: 受講者提出締切 後2週間以内 gacco
	ワークショップ②		3	参加日誌	参加日誌: 終了後1週間以内 Google Docs
		40			

3.7. 評価

数回にわたるアンケート実施

2022日振協初任者(留学生)研修オンラインワークショップ②アンケート

最後のオンラインワークショップお疲れ様でした。いかがでしたか？これまでの研修を振り返り、皆様の率直なご意見をいただきたいと思いますので、下記の質問にご回答願います。

I .gaccoを使用した学習について

説明（省略可）

I -1 *

	1	2	3	4	5
良くない	☐	☐	☐	☐	☐
大変良い					

I -2. 何かコメントがあればお書きください。

記述式テキスト（長文回答）

初任者修了証

修了証明書

第 2022-N- 号

氏 名 [REDACTED]

生年月日 [REDACTED]

あなたは当協会主催「2022 年度文化庁委託 留学生対象の日本語教師初任者研修」を受講し所定のコースを修了したことを証明する

総単位時間 90 単位時間
受講期間 2022 年 6 月 25 日～2023 年 1 月 31 日

2023 年 2 月 21 日
一般財団法人日本語教育振興協会
理事長 佐藤 次郎

Certificate

[REDACTED]

Date of Birth [REDACTED]

This is to certify that you have completed the 2022 Novice Japanese Language Teacher Training Course for International Students commissioned by the Agency for Cultural Affairs and offered by the Association for the Promotion of Japanese Language Education.

Total unit hours in training : 90 unit hours
Period of training : June 25, 2022-January 31, 2023

Sato Jiro
Sato Jiro
President
Association for the Promotion of Japanese Language Education

育成修了証

修了証明書

No.2022-N- 号

氏 名 [REDACTED]

生年月日 [REDACTED]

あなたは当協会主催「2022 年度文化庁委託 留学生対象の日本語教師初任者研修担当講師育成研修」を受講し所定のコースを修了したことを証明する

受講期間 令和 4 年 6 月 10 日～令和 5 年 1 月 31 日
総単位時間 40 単位
令和 5 年 2 月 21 日

一般財団法人日本語教育振興協会
理事長 佐藤 次郎

4. 事業評価概要

【事業評価委員会による評価】

【取組み目標】

開発したプログラムの有効性を確認するとともに、本事業の評価を実施すること

【実施体制】

事業全体の評価は、外部の有識者を中心とする評価委員会をもって実施

【評価委員】

4名

【開催回数】

総時間 4 時間（2時間×2回）

【検証方法】

研修事業実施報告書とその関連資料、評価委員による研修実施状況の観察及び研修受講者アンケートを参考に事業評価を行う

4. 事業評価概要（評価の観点及び検証方法）

【 評価の観点及び検証方法】

①求められる知識が得られたか

- ・ 研修時の成果確認等
- ・ 受講生アンケート、および、その集計分析の確認

②初任教員研修及び育成研修において受講者としての課題が意識できたか

- ・ 受講者の自己点検・評価（研修開始時、研修終了時に実施）
- ・ 結果のアンケート形式による報告、メンターによる確認の検討

③実践力向上が図られたか

- ・ 集合研修・ワークショップ等の指導者評価の確認・検討
- ・ 受講者の自己評価の確認・検討

4. 事業評価概要（検証結果）

全国7ブロックからの受講

会員以外の学校からの受講の増加

	受講者数 (所属校数)	地区(細分)	受講者数 (所属校数)	維持会員校以外 からの参加(内数)	修了者 数(人)
北海道東北	3名 (2校)	北海道	2名(1校)	-	2
		東北	1名(1校)	1名(1校)	1
北関東甲信	1名(1校)	北関東	1名(1校)	1名(1校)	1
南関東	25名 (18校)	東京都	16名(12校)	5名(5校)	14
		東京都以外	9名(6校)	8名(6校)	9
東海北陸	7名 (5校)	東海	6名(4校)	4名(3校)	6
		北陸	1名(1校)	1名(1校)	1
近畿	7名(7校)	近畿	7名(7校)	2名(2校)	6
中国四国	4名 (3校)	中国	4名(3校)	1名(1校)	4
		四国	-	-	-
九州沖縄	11名 (6校)	九州	9名(5校)	8名(4校)	7
		沖縄	2名(1校)	2名(1校)	1
合計	58名 (42校)			33名(25校) [昨年度23名12校]	52

4. 事業評価概要（検証結果）

【育成】（応募者の中から10人を選抜）

育成研修受講から実施委員へという
人材発掘の流れができています

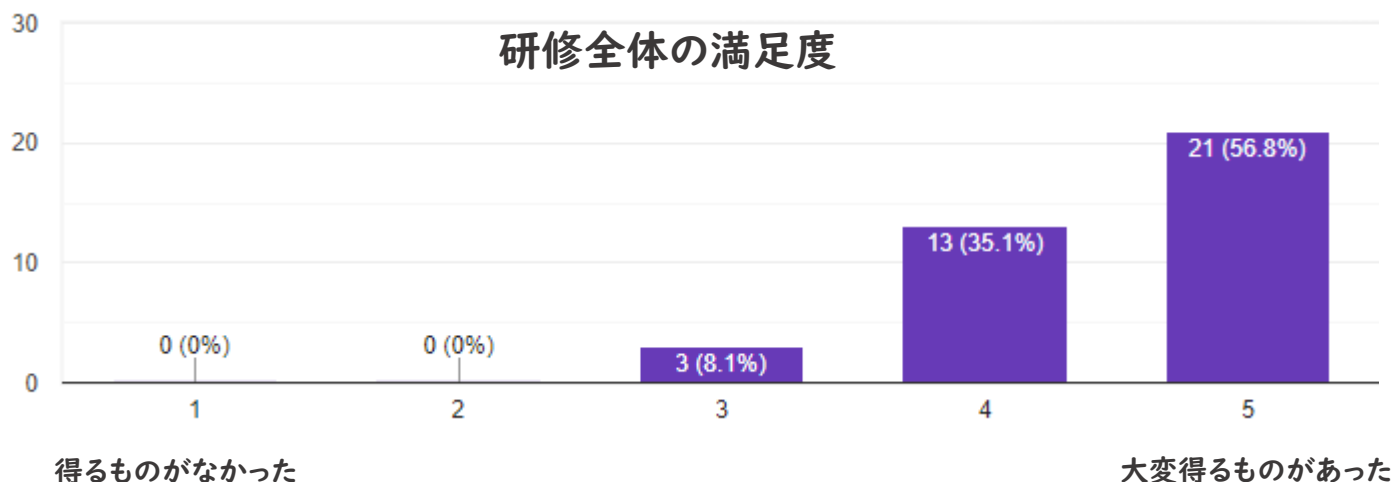
全国4ブロック
からの受講

	地区（細分）	受講者数 （所属校数）	維持会員校 以外からの 参加（内 数）	左記日本語 学校以外の 所属	修了者数 （人）
北海道東北	北海道	-	-	-	-
	東北	-	-	-	-
北関東甲信	北関東	1	1		1
南関東	東京都	5	4	大学 1	5
	東京都以外	1	1	大学 1	1
東海北陸	東海	-	-	-	-
	北陸	-	-	-	-
近畿	近畿	1	1	企業 1	1
中国四国	中国	-	-	-	-
	四国	-	-	-	-
九州沖縄	九州	1	1	-	1
	沖縄	1	1	-	1
合計		10名	9		10

大学など受講対象者の広がり

5. アンケート結果から見る成果と課題

【初任者】



◆成果

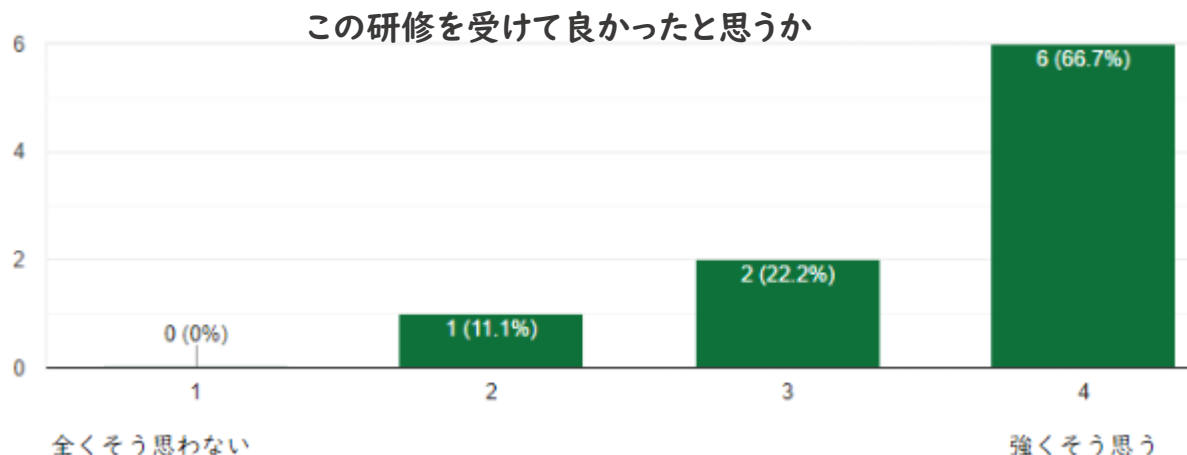
- ・映像講義やワークショップを通して、こういう風にすればいいんだと道しるべができた。
- ・授業を組み立てる際に、何が大切でどんな手順で考えればいいのかを具体的に学ことができ、以前より教案を考えることへの不安が減った。
- ・自己流になっている部分を改善することはとても大変だと感じたが、これを続けて磨いていきたい。

◆課題

- ・日々の授業準備に追われ、なかなか時間が取れないのが悩み。
- ・内容が豊富で「消化」するのが大変だった。

5. アンケート結果から見る成果と課題

【育成】



◆成果

- ・メンターズメンターの先生に相談しながら進められたのはありがたかった。
- ・自分に不足している能力を自覚でき、経験する機会があってよかった。
- ・様々な学校の先生と交流ができ、全国にお仲間ができた。

◆課題

- ・対面と違ってオンラインでのファシリテートは難しかった。
- ・交流が十分でない中でのファシリテートは難しかった。

日本語教育人材の不足に対する効果

- ・ オンライン授業やハイブリッド授業が教育の新常態となりつつある現在、教師のデジタルコンピテンシーの育成は重要な課題であるが、本研修はこの側面で全国の初任者教師のレベルの底上げに寄与している。
- ・ 他の地域、別の機関で働く同じような立場の者同士がつながることにより、離職する人材の減少や継続的に日本語教育に取り組む人材の増加に資している。
- ・ 育成研修についても各地から教師経験豊富な受講生が集まった。今年度は大学からの参加もあり、それぞれが所属する教育機関や地域での育成研修に積極的に関わっていけると回答している。
- ・ フルオンラインという実施形態は、ツールの移り変わりへの対応や研修内容の更なるブラッシュアップは必要であるが、教師研修の機会の均等化につながることを過去3年の研修実施で実証されている。